

令和7年度第2回有明アーバンスポーツパーク整備運営事業モニタリング委員会 議事要旨

1. 開催日時 令和7年8月5日（火曜日） 14時から16時まで
2. 開催場所 東京都庁第一庁舎19階 19E会議室
3. 出席委員 小宮山榮委員、滝田佐那子委員、丹生谷美穂委員、松橋崇史委員、山口直也委員
（5名全員出席）
※第1回の互選により、委員長は山口委員

4. 会議内容の概要

※有明アーバンスポーツパーク整備運営事業モニタリング委員会設置要綱第7の規定に基づき、一部を非公開

（1）開会挨拶・趣旨説明

事務局より、第1回モニタリング委員会で出た意見等を踏まえて、事業者と直接質疑応答を行っていただき、令和6年度有明アーバンスポーツパーク整備運営事業報告書について、ご意見を頂きたい旨を説明

（2）議事

ア 事業者の財務状況について

事務局より、事業者の財務状況について説明

イ 事業者との質疑応答

（山口委員長）

各競技団体の大会の誘致は、年間を通じて誘致しやすい時期はあるか。特に、7～9月は酷暑により大会の開催は難しいのではないか。

（事業者）

真夏の大会は少ない状況であるが、各種目で誘致しやすい時期はある。スケートボードは春と秋、ボルダリングは春から秋までが主なシーズンである。また、3x3 バスケットボールは7月からお盆前後にかけて大会が開催される。

（小宮山委員）

インスタグラムのフォロワー数について、目標とするフォロワー数と、今後のSNS戦略を教えてほしい。

（事業者）

フォロワー数は、年内に1万人のフォロワー獲得を目標としている。今後のSNS戦略とし

て、8～11月にかけての定期的なイベント実施とあわせたライブ発信を行っていく。

(小宮山委員)

スケートボード無料体験会の参加者がリピートにつながない理由は何か。

(事業者)

コース自体がオリンピックのレガシーコースで、非常に難易度が高いことが考えられる。利用定着に向け、スクール事業を展開し、体験機会を広げる取組を行っている。

(滝田委員)

イベント利用者とは、有料なのか。また、利用料収入を増やすためにはイベントを増やせばいいということか。

(事業者)

イベントに来られる方は無料で、施設を一般利用する方を有料利用者としてカウントしている。イベント利用者が次に施設を利用いただければ有料利用者となり、利用料収入につながる。

(松橋委員)

スクール事業は、どのくらいの規模で実施しているのか？

(事業者)

昨年度は、スケートボードについて、超初心者を対象としたレッスン体験会を土・日曜日を中心に3～4回/日実施し、5～10名/回が参加した。

また、ボルダリングは今期6月1日から火・水曜日に1コマ1時間を1日3コマ、合計6コマ実施し、5名/コマが参加している。バスケットは今期より週1回、東京ユナイテッドバスケットボールクラブ(TUBC)と協力して1コマ開催している。

(松橋委員)

スクール事業は、今後もニーズを掘り起こせる余地があるか。

(事業者)

有明地区は年間1万人規模で人口が増加しており、加えて3つのプロバスケットボールチームの拠点整備が進む中、地域としてスポーツへの注目度が高まっており、伸びしろがあると考えている。有明・お台場地区の連携協議会を通じて、スポーツを軸とした地域活性化に取り組んでおり、直近では、今年10月のトヨタアリーナ東京開業に合わせて、スポーツムーブメントのさらなる盛り上げを図るべく準備を進めている。

(丹生谷委員)

英語の聞き間違いで、死亡事故が発生したという他国での事例がある。外国人利用者とのコ

コミュニケーションにおいて、今のところ支障はないか。

(事業者)

英会話ができるスタッフを現場に配置している。配置できない場合はコミュニケーションツールも活用しており、問題は起きていない。

(丹生谷委員)

騒音について、天候等の条件によっては音が聞こえやすくなったりするようだが、どのように対策しているか。

(事業者)

イベント時の音響は、スピーカーの向きを音域に応じて調整している。特に低音は広範囲に広がるため、現地で音量測定を実施し、必要に応じて音量を調整している。スピーカーおよび照明はマンション側を避けるよう徹底しており、開業初期に一部苦情があったものの、現在は問題なく運営されている。

(山口委員長)

雨天時、落雷時の利用中止対応について、対応状況等をデータで蓄積しているか。

(事業者)

データは蓄積していないが、その時々警報により随時適切に対応している。

(山口委員長)

エリアマネジメント活動を実施するなかで、どのような地域のニーズが出ているか。

(事業者)

騒音やスケートボード利用時のマナーに関する懸念がある一方、子どもがもっと利用しやすい施設になってほしいという要望を受けている。これを受け、ボルダリングスクールや無料体験会を実施している。また、東京 2020 大会のレガシーを身近に体験できる機会を増やしてほしいという要望もあるため、今後もこうしたニーズを踏まえて対応していく。

(山口委員長)

昨年度は工事と運営を実施しているが、工事の時期に売上はあったのか。

(事業者)

工事の時期の売上は発生していない。

(山口委員長)

昨年度は半年の運営だったが、今年度1年間の売上や利益はどの程度見込んでいるか。

(事業者)

施設の認知度向上でイベント利用が増加する見込みもあり、昨年度の売上1億5,200万円に対し、今年度は2倍以上の売り上げ目標を立てている。なお、売上原価は固定費の割合が高いため、売上の向上が黒字化へつながると考えている。

(小宮山委員)

売上原価の中で、固定費と変動費はどのようなものか。

(事業者)

固定費は、施設内の受付レセプション等の運営に係る人件費や減価償却費が大部分を占めている。変動費は、一部のイベント事務局に関する経費や広告費用であるが、割合は低い。

(山口委員長)

売上が当初の想定を下回った原因は何か。

(事業者)

事業提案段階の想定より入場者数が少なく、施設の利用率が低かったこと、店舗等の売上が想定のおよそ5～6割で推移したことが原因である。

(山口委員長)

今後の入場者数について、どの程度になると見込んでいるか。

(事業者)

7・8月は酷暑により来場者数が減少することを想定し、開業から1年となる10月までの運営状況を踏まえ、来場者数の見込みを立てたい。夏季の対応としては、夜間の来場を促す夜型イベントの実施や、朝の営業時間を早めて散歩利用者の受け入れを図るなど、利用促進に向けた工夫をしていく。

(小宮山委員)

販売費及び一般管理費明細書の支払管理費3,000万円は、東京建物に支払われているのか。

(事業者)

S P Cには役員以外の従業員がいないため、実務・プロジェクトマネジメント業務を代表企業の東京建物に委託している。委託料の中に人件費相当額が含まれている。なお、S P Cの役員は無報酬である。

(丹生谷委員)

大会レガシーゾーンはS P Cの会計とは別となっているため、S P Cの監査法人による監査

を受けていないが、正しい情報が上がる仕組みとなっているのか。

(事業者)

大会レガシーゾーンの収支については、運営するT S P太陽株式会社内で業務監査を行った上で、S P Cへ提出されている。また、大会レガシーゾーンの利用者数等の実績もS P Cへ報告する仕組みになっている。

(小宮山委員)

年間目標に達するための挽回策はあるか。

(事業者)

大会イベントと合わせ、施設全体を利用してもらえるような施策を実行していく。春と秋がアーバンスポーツのハイシーズンであるので、秋シーズンに向けた準備を実施している。

(丹生谷委員)

東京以外にも同様の施設があると思われるが、他の施設との差別化等、戦略はどのように考えているか。

(事業者)

開業以来、アーバンスポーツ施設の整備等を考えている全国の自治体が、当施設の視察に訪れている。こういった自治体とは意見交換、情報交換を行っており、差別化を図るというよりは連携を模索していく。首都圏でも、アーバンスポーツ施設ができてきており、イベントでの施設間連携等、差別化というより連携の方に意識を向けながら、戦略を考えている。

ウ 令和6年度有明アーバンスポーツパーク整備運営事業報告書(案)について

事務局より、令和6年度有明アーバンスポーツパーク整備運営事業報告書の評価について、令和6年度は、先行投資の影響等により営業損失が生じているものの、円滑に各種サービスが提供されており要求水準を満たしている点、大会レガシーゾーンと多目的ゾーンの相乗効果を最大限に発揮し、施設の認知度を高め、スポーツ大会や体験会、各種イベントを積極的に開催することにより、集客力を高め収益基盤の強化を図る必要がある点を記載していると説明

委員より、報告書内の都の評価について、以下の発言あり

(山口委員長)

総合評価の記載について、気候変動の影響で非常に集客が厳しい時期がある点を、記載した方がいいのではないか。

(丹生谷委員)

財務状況等の記載について、東京都へのプロフィットシェアがなかったことについての記載を入れた方がいいのではないか。

(小宮山委員)

来年度以降は、前期と当期で増減分析ができる資料を提出してもらった方がいいのではないかと。

(3) 連絡事項

事務局より、第2回モニタリング委員会の意見を踏まえて報告書を修正し、再度確認いただき、報告書完成後は、都のHPで公開することを説明

以上